

S5-3**組織移植コーディネーターからみた移植医療の現状と展望**

小川 真由子、石垣 理穂、中谷 武嗣

国立循環器病研究センター 移植部

国立循環器病研究センターでは、ご本人、ご家族の希望があった際、ご家族の承諾のもと、心停止後に心臓弁・血管を摘出・凍結保存し、移植を必要とする方へ院内外を問わず提供する組織保存バンク(以下バンク)事業を行っている。また、西日本組織移植ネットワーク事務局(事務局長:中谷武嗣)としても、啓発活動を始め、心臓弁・血管以外の組織についてもコーディネーション活動を行っている。

組織移植における組織とは、心臓弁・血管、皮膚・骨・靭帯・臍島・羊膜等があり、いずれも救命及びQOL改善のために有用である。しかし、組織移植は「臓器の移植に関する法律(臓器移植法)」の指針に許容されるものと明記されているが、法に基づく臓器移植とは一線を画し、日本組織移植学会ガイドラインに則って各々の組織についてバンクを設置し、そのバンクを有する施設が組織移植コーディネーター(以下Co.)を雇用し、東・西日本組織移植ネットワークのもと各バンクが連携する体制で実施されている。全国対応を行う事は人的及び経費の面から困難であり、認定組織移植Co.の数も十分とは言い難い。また、摘出もバンク所属(連携)施設の医師が行う事から、摘出対応地域を限定せざるを得ない。

国民の臓器移植に対する意識は向上し、提供の意思を持つ人々が増加している事が世論調査等より示されている。昨年、脳死下での臍臓提供において、臓器移植として不適な場合、組織である臍臓移植のための提供が行われるようになり、症例も増えつつある。他の組織においても同様の連携を進めるために、臓器移植Co.等関係各所との協力体制をより強化し、提供の意思のある方、ご家族の思いを最大限生かすことに努めると共に、摘出チームを各地に編成し、提供における地域偏在性を解消するよう努めていく事が必須である。